

名古屋大学大学院文学研究科附属日本近現代文化研究センター (MCJC)について

名古屋大学大学院文学研究科附属のセンターとして2008年10月1日に発足した「日本近現代文化研究センター」(Research Center for Modern & Contemporary Japanese Culture. 略称「MCJC」)は、日本近現代文化が提起する様々な問題を総合的に分析し、文学・歴史・言語などの研究の統合を目指すとともに、映像・マンガなどの視覚文化やメディアの領域にも焦点をあてて、新しい日本研究のヴィジョンを提示することを目的とした研究活動を行っている。

これまで総長裁量経費や文学研究科プロジェクト経費など、名古屋大学内の競争資金を獲得して、欧米や韓国その他の海外の日本文化研究の機関と幾つかの研究プロジェクトを積み重ねてきた、文学研究科の日本文化学講座の教員(坪井秀人・齋藤文俊・藤木秀朗)が母体となり、そこに情報科学研究科の協力教員(茂登山清文・秋庭史典)も加わって構成された組織で、センターは主として次の二つのプロジェクトを行う。

第1は中国、台湾、韓国・朝鮮といった東アジアの中で日本の近代化が文化領域においてどのような固有性を持っているのか、日本文化の近代性(modernity)を東アジアの他の地域との比較から考察する研究である。今まで日本文化学講座が継続してきた共同研究のプロジェクトを東アジアの中で完結させるのではなく、欧米など他の地域の研究者の協力も得ながら「東アジアの中の日本文化とその近代性」に対して巨視的なアプローチを試みる。

第2のプロジェクトの柱は「近代日本文化の重層的諸相」という主題によって行われるもので、複数的で重層的な日本文化の特質を、特に欧米で注目されている視覚文化研究を重視し、映画やアニメなどをも視野に入れた新しい日本文化研究のスタイルを創出することを目指している。

これらのプロジェクトを通して人文学研究全体を活性化し、領域間の研究交流を促進するとともに、海外における日本文化の評価を一層高め、世界からの研究需要に刺激を与えることが期待できる。教育面での効果においても、年々増加する留学生からの教育研究の需要に的確に対応し、魅力的・現代的な教育研究のプログラムを開発することにも貢献できると考えている。